

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1176501193		
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・与野本町		
所在地	埼玉県さいたま市中央区本町東4-17-4		
自己評価作成日	令和2年8月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ケアシステムズ		
所在地	東京都千代田区麴町1-5-4-712		
訪問調査日	令和2年9月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を感じて頂ける壁面作りを御利用者様と一緒に手作りし、季節毎のひな祭りや七夕などのイベントの際には職員手作りの仮装を行い、楽しみながら層を感じて頂ける機会を作っています。体操では職員それぞれに任せ、個性のある体操を取り入れていきます。口や足など全身を使える運動や歌を取り入れた体操や風船やボール、棒などレクリエーションに取り入れながら体操が苦手な方でも自然と楽しみながら体を動かせるきっかけになるよう支援しています。また、歌がお好きな方にはCDやビデオを渡し、歌集を見ながら一緒に歌ったり、植木いじりがお好きな方は外の花壇の水やりや季節ごとの苗植えをして頂き、成長する過程を見る機会を作り、お話しがお好きな方にはニュースや新聞、広告などから話題を提供し、現在のお話しをしたりと、お一人お一人の趣味や特技、興味のあるものを共有しながら、日々の楽しみや充実できる生活に繋げていける支援に取り組んでいます。また、日々のお食事の時間も大事なコミュニケーションの場と考え、手作りおやつや宅配の食事レクなどを企画し、お食事の楽しみを継続して持って頂けるよう取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護計画書に沿った支援が実施できるように「介護計画要約表」を作成し、職員が共有して、いつでも確認でき、支援に反映できるような仕組みが整っている。また、コロナ禍で今まで毎月、実施していたイベントは、規模を縮小して各フロアごとの活動とはなっているが、中止せず実施にむけて取り組んでいる。定期的に行っていた外食レクリエーションは、コロナウイルス感染防止の為、実施できないが、宅配ピザの注文、配達アプリでのハンバーガー注文などの工夫により、利用者からも好評を得ていることが報告されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

-211.24

介護保険課

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議や日々の申し送りの中で、事業所理念、事業所目標を振り返る場を作り、職員同士で共有している。ユニット入り口、スタッフルームに掲げ、認識しなおせる機会になり、日々の業務に活かせるようにしている。	1日1回は、職員同士で理念の振り返りを行う事を習慣化している。また新人職員には、研修機会が設けられているほか、ホーム長やフロア一長も声掛けをして職員全員が理念に基づいたケアを実施できるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、敬老会、ハロウィン、卒園式等の季節ごとの行事で近隣保育園との交流を図り、地域のボランティアの方にも訪問して頂きながら、少しずつ交流に繋がれる機会を深めている。	地域の関わりも根付いており、保育園やボランティアなどが来訪されている事が、議事録で確認できている。現在はコロナ禍にあり、交流等は中止されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広告や看板、ブログなどを用いて、事業所で行っているレクリエーションや催しものなど発信をし、認知症やグループホームの理解へと繋がれるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、多くのご家族様にご参加いただき、地域包括支援センターや高齢介護課を交え、ホームの状況や取り組みを報告し、意見交換を行っている。	年6回の運営推進会議の実施について議事録で確認できている。現在はコロナ禍にあり、開催出来ず家族や役所、地域包括支援センターなどに中止連絡をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の中でホーム内の状況やご利用者様へのサービスの取り組みを伝えていきながら、情報交換を行い、市町村と連携が図れるよう、取り組んでいる。	地域包括支援センターとは運営推進会議の機会に連携しているほか、役所主催の研修に参加をしたり定期的に役所担当課を訪問し事業所の実情を報告するなど、協力関係が築けるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を行い、身体拘束をしないための意見交換や再確認の場を作り正しく理解する勉強会を行っている。ユニット入り口は解錠し、ご利用者にとって開放感のある生活を送れるよう対応している。	2ヵ月毎に事業所内の身体拘束委員会主催の勉強会を行っており、研修終了後には職員一人ひとりから意見や感想を出し合い、身体拘束の理解が深まるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を行い、どのような場面で虐待が起こりうるか、日頃のケアや言葉かけを見直しながら職員間での意識を高め、周知できるようし、事業所内の虐待ゼロに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されている方や保佐人に適用されている方もいる。日頃から、ご利用者の意向やご様子などご家族様や関係者にお伝えし双方の関係が維持できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に事業所見学、面談でのご利用者様やご家族様との話し合いの場で、不安点や疑問、意向など十分な説明と話し合いを行いながら、お互いの理解を深められるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来訪時等、積極的にコミュニケーションを図り、ご要望やご意見をくみ取れるよう努めている。ご家族様アンケートやご意見ポスト、お客様相談室のフリーダイヤルなど運営に反映できるようにしています。	コロナ禍であり、様々な取り組みが中止となっているなかで、職員からの提案により、事業所のカウンターごしではあるが、時間制限を設けて家族の意見や相談ができるような機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議だけでなく、申し送りや連絡ノートを活用しながら、誰でも意見を出しやすい場を設けている。日々のふとした時間にフロアを回り、職員と話す中で、小さなことでもくみ取れるよう努めている。	職員の意見は随時本部に伝え出来る限り運営に反映するように心がけている。個人面談も行われているが、日常的に職員から意見を聞けるように連絡帳などを活用しており、事業所運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年2回行い、自身の振り返りの場を作っている。日頃の勤務状況や意見や要望をヒアリングしながら確認し、各自が向上心を持ってやりがいのある職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員のスキルや力量を把握し、苦手な分野の克服やケアの質を高めるために事業所内外の研修に参加できる機会を設け、職員のスキルアップに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やヘルプ等で他施設に行く機会を作り、同業者と交流する機会を作っている。その中で気づきや実践状況を知り、意見交換を行える場として互いを高めあえる取り組みに繋げている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の思いや不安をその都度お聞きしながら、随時モニタリングを行い、安心して頂ける環境作りと職員間の共有を行いながら、ご本人様にとって安心感のある職員であるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前にご家族様の不安や要望について話し合い、解決に導いていけるよう努めている。ご入居後の様子をお伝えしながら安心してお任せできる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様やご家族様の求めていることや意向をお聞きし、初期段階として何が必要かを見極め、反映できるよう確認しながら提案し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士との関係を築いている	事業所理念である「ゆっくり・一緒に・楽しく」を念頭に、ご利用者様と職員が共に行い、一緒に共有し合う中で一方の立場にならず生活を共にする者同士として信頼関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の日頃の様子や気付いたことをこまめにお伝えしながら情報共有し、ご利用者の状態と一緒に考え話し合いながら支援の協力を共に行える関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも連絡ができる環境を作り、ご家族様やお付き合いのあった友人など電話やお手紙でやりとりを続けられるよう支援している。馴染みの美容院やご自宅に帰る機会もご家族様の協力のもと作っている。	知人からの手紙のやり取りや家族と馴染みの美容室に出かけたり個別契約の携帯電話でやり取りをする機会を設けている。また、利用者の郷土食を提供する機会もあり、昔を思い出してもらえよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席を工夫したり、会話の橋渡しを行いながら、ご利用者様同士の温かい輪が広がるよう支援している。お話が困難な方でも皆さんと寄り添いながら一緒に過ごせる空間作りができるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、こちらから連絡を行いご家族様にとって訪問や連絡がしやすい環境を作り、ご利用者様やご家族様のご様子や近況を電話やお手紙を通じて確認し相談支援に繋げられるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各ご利用者様に2名の居室担当者をおき、日々の様子や意向を普段からも密に読み取れるよう細かくモニタリングを行いながら、ご利用者様本位のケアが提供できるよう努めている。	介護計画見直し時には、本人・家族の意向の確認を行っている。意思疎通が困難な利用者については日々様子を記載している生活記録やフロア会議での職員同士の話し合いから、意向を読み取って支援に反映させるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご自宅にいた時の生活やご様子をご利用者様やご家族様に伺いながら、ご利用者様の暮らし方を尊重し今までの生活環境に近づけられるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の連絡ノートや生活記録を活用しながら、ご利用者様の状態や生活リズムなど把握し共有している。日々様子や表情・言動から小さな変化に気付けるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングの結果をもとに、訪問診療医や訪問歯科医等の関係機関の意見や指示を取り入れながら、ご利用者様の意向とご家族様の意向に沿い、現状に合った介護計画を作成している。	3・6か月ごとに行うモニタリングを基にサービス担当者会議を実施して、介護計画書の見直しを行っている。家族がサービス担当者会議に出席できない場合には電話、メール、手紙などで対応をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	すぐ確認できるよう介護計画表を常置している。ケアプランに基づいたケアを職員が意識し、個々に記録する中で実践状況を確認しながら職員の共通理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージや訪問リハビリ、シニアセラーなど専門職や医療機関にアドバイスを頂き、連携を図りながらその方のニーズに合わせた対応ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響で今年は交流ができていない状態だが、例年は定期的に地域のボランティアの方の来訪や保育園児との交流を図り、地域の中で安心して楽しい生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様やご利用者様本人が希望される医療機関やかかりつけ医を確認し、主治医を選出している。ご本人様・ご家族様・主治医・職員との間で情報を共有し、適切な医療の提供ができるよう対応している。	月2回、内科、歯科の訪問診療があり、その内容をモニタリングに反映する仕組みが整っている。また、訪問介護、歯科衛生士の訪問は毎週実施しており、医療との連携を取りながらの健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問する医療連携看護師に日常の変化や気づき、状態の報告を行い、助言を受けながら適切な対応、看護が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関を定め、入院時に安心して医療を受けられるよう対応している。入院中は面会や病院関係者やご家族様と情報交換を行い、早期退院に繋げられるよう連携を密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応の指針を定めたものがあり、入居時に説明を行っている。事業所ですること、できないことを含め、状態に応じてその都度ご家族様や主治医と話し合いを行いながら、ご利用者様にとっての一番良い対応に努めている。	入居時に重度化や終末期の説明をしており、その身体状況の詳細はホームページにも記載している。身体状況の低下がみられる都度、家族との話し合いを行い、医師との連携を取りつつ施設での対応の仕方を理解してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルがあり、急変時や事故発生時における体制があり、マニュアルを使いながら会議や研修の中で起こりうる事例をシミュレーションし職員同士で検討し実践できるよう備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防隊による指導を受けながら、年2回の避難訓練を行っている。夜間を想定して夜勤者一人の場合での避難方法を訓練し、危機意識を身につけて全職員が実践できるよう取り組んでいる。	年に2回、避難訓練の実施をしており、災害時の対応がスムーズにできるように取り組んでいる。今年度に関しては、コロナウイルス感染防止の為、消防隊の立会は無い形での実施となった。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、その方の状況やその方に合わせたお声かけを行い、個人の尊厳を損なわないように対応しています。トイレ時や居室などプライベート空間においてもお気持ちに配慮しながらお声かけ、見守りを行っている。	トイレ誘導時には、周りに気づかれないような声掛けをしたり、居室の整理整頓をする場合には本人が必ず立ち会って居室担当と行うなど、プライバシーへの配慮を気遣った支援を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせた言葉かけや選択肢のあるお声掛けを行い、できるだけ自己決定できるよう職員は助言に留め、対応している。表情や行動でお気持ちが読み取れるよう寄り添う時間を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本となる日課はありますが、その都度言葉かけを行いながら、ご利用者様の生活ペースを尊重できるよう支援している。体操やレクリエーション時はお誘いし過ごし方の幅が広がるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の化粧水や乳液など使用して身だしなみを整えたり、好きな衣類を選んできてちょっとした化粧をお手伝いさせていただく機会を作っている。マニキュア塗りを定期的に行い、好評の声を頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本日の献立をフロアに飾り、毎日の話題に取り入れ、食事のお楽しみに繋がるよう支援している。ご利用者様の号令と一緒に食事し、テーブル拭きや下膳のお手伝い、食器拭きをして頂いている。	利用者は調理自体は行っていないものの、フロアに掲示するメニュー表の作成や食後の下膳、食器拭きにも参加し、利用者が食事に関わる手伝いが出来るように支援している。	家族アンケートにて、毎月のメニュー表の案内が欲しいとの意見があった。今後の対応に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の状態に合わせて食事量や水分量を把握し、残存機能やお食事のペースを見極めながらご利用者に合った食事形態を支援している。職員と一緒に食べることで必要に応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医、歯科衛生士の口腔状態の説明や指導のもと、個々にあった口腔ケアに努めている。お声かけをすれば磨ける方、うがいや仕上げ磨きのお手伝いを必要とする方など、見極めながら支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用しながらお一人お一人の排泄パターンやサイクルを把握し、ご利用者様のお気持ちに配慮しながらお声かけや誘導を行い、トイレでの排泄に向けた支援を行っている。	排泄チェック表やフロア会議にて利用者一人ひとりの排泄リズムを把握して個別支援に努めている。また、夜間時にも声掛け誘導をして極力、トイレでの排泄が出来るように促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な水分補給、乳酸菌飲料の摂取をしながら、運動等で体を動かす機会を作り、できるだけ自然な形で排便できるよう努めている。個々の排便周期を把握し、主治医に相談しながら下剤の服薬管理を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴されることを事前にお聞きし、好みに合わせた湯温の調整や入浴剤を使用しながら、ゆっくり入浴して頂いている。ご利用者様個人のお好きなシャンプー、石鹸、乳液などの使用も行っている。	入浴表を用いてローテーションにて3日に1回ペースで入浴が実施されている。入浴拒否や体調不良の場合には次の日に振り替える対応により、入浴が怠ってしまうことのないような仕組みとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の休みたい時に居室で休息できるよう、室内の室温管理を行いながら、安心して過ごして頂けるよう支援している。日中の生活状況や活動時間を見極め、夜間の安眠に繋げられるよう支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方時に主治医や薬剤師からの指示や薬の使用方法、副作用等、職員間での周知を行い、さらに薬表の確認も行っている。服薬による変化など敏感になりすぐ気付くよう各自確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様やご利用者様から生活歴をお聞きし、得意とする分野(歌や家事手伝いなど)を行えるよう支援し、ホームでの生活で新たな一面やお好きな取り組みが発見できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気のいい日には、木々を見ながら散歩したり、ホーム前の花壇の植え替えや水やりなどして頂いている。季節によってはイスを置いて外気浴を行っている。	以前は近隣のレストランやラーメン屋に外食をする活動を実施していたが、コロナ禍においては実施されていない。しかし、外気浴や施設周りの散歩などは、利用者の気分転換のために実施に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失や盗難、勘違いによるトラブルが起こりうるため、施設内の貴重品の持ち込みは禁止になっている。近隣での買い物や移動販売での買い物時は立替金という形で、好きなものを選んで買って頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時に電話ができるよう、事前にご家族様に了承を得て、ご家族様と毎日電話で話されたり、身近にご家族様を感じて頂けるよう支援している。ご家族様からの手紙をお渡しし、電話で返事をされる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにはご利用者様と一緒に手作りした季節を感じて頂ける壁面飾りを行っている。飾った壁面から、季節や思い出話など話に花が咲くような空間作りを行っている。室温調整や音楽を感じ、安らげるような空間作りを行っている。	フロアスペースには作成した季節の壁飾りや利用者の出身地を記した日本地図、誕生会の写真などが飾られている。また、懐かしい音楽を流して落ち着いて過ごせる雰囲気作りにも取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際やフロア内にソファやイスを置き、お一人でも気の合う方とでも、自由に過ごして頂ける環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていたタンスやテレビ棚、ソファやイスやぬいぐるみなどを居室に置いて、なるべくご自宅にいた時と変わらず過ごして頂けるようご家族様やご本人様と相談しながら行っている。	安心して過ごせるように、自宅で使用していたものや家族の写真などを置くようにしている。また、自宅の部屋と似たようなベッドや家具の配置変更も可能となっており、居心地の良い環境作りに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日の申し送りや日々の会議の中でご利用者様お一人お一人のできることを職員間で共有できる場を設け、ケアの話し合いをし、できるだけ自立に向けた安全な生活が送れるよう努めている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	40	ご家族に対し、毎月の食事の献立をお伝えしきれていない部分がある。	イベントだけでなく、日頃のお食事においてのお知らせや報告を文面だけでなく、献立表や写真を添えてお伝えしていく。	①毎月のお便りに献立表のご案内を入れる。 ②見やすいようにA4サイズではなく、A3サイズでの送付を行う。 ③ご来訪時にもご覧できるよう、ホーム入り口に「今月の献立」欄を作り、掲示する ④お便りや来訪時にイベントだけでなく日頃のお食事風景の写真等で御家族様にお伝えしていく。	1ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。